

住民自治協議会だより

第28号

発行 小田切地区住民自治協議会

〒380-0876
長野市大字山田中2545TEL 026-229-1511 FAX 026-229-2074
E-mail otagiri-jitikyoku@ngn.janis.or.jp

小田切夏まつり中止 会場予定地の校庭は整備

第2回小田切夏まつりは、8月10日の開催に向け準備を進めてきました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態は解除されたとは言え、未だ感染リスクへの十分な対応を要する状況下に変わりありません。実行委員会でも、予防策を徹底したとしても、人の密集や模擬店で食の提供への対応、更に昨年協力してくれた長野翔和学園が、今も従来の活動ができない状況にあり参加できないなどから中止としました。

ただ、実行委員会では中止となっても、次年につなげるため、今年から会場とした小田切中学校校庭の背丈以上もあるヨシなど草刈りし整備しました。6月29日に13名の実行委員で行い、年内にもう一度予定しています。



草刈り作業



防災物品整備で発電機とLED投光器

赤い羽根共同募金会より



発電機

小田切地区住自協は、赤い羽根共同募金「安心・安全なまちづくり活動支援公募配分」より、避難所用物品整備として発電機1台と三脚付きLED投光器3セットの配分を受けました。

近年の自然災害発生は、忘れた頃でなくともいつ身近なところで起こるかわかりません。地区内のほとんどが土砂災害警戒区域内で、防災対策として停電や夜間対応備品を整備しました。共同募金会からは昨年度も、防災部品保管庫の配分を受けました。



投光器

小田切地区紹介マップ 作成中 「ながのまちづくり活動支援事業」を活用

小田切住自協は「小田切地区紹介マップ」を作成中です。この事業は「ながのまちづくり活動支援事業」の補助金を受けています。

最近、地区案内の問い合わせが多く、目立った目標物のない当地区において道案内できるマップは特に必要と考えます。県道、市道を基準とし、全集落に設置してある停留所も加えます。名勝地や史跡など初めて訪れる人にも分かりやすく紹介できると思います。

今は、各所の紹介写真の選定にドローン撮影も加え準備しています。完成は年内が目標です。



ドローン撮影

お善鬼谷の「風穴」修復中 小田切八景 三竈神社裏



お善鬼谷の三竈



風穴の現状

小田切の風穴は三竈神社の裏手にあり、石山には冷気が漂い5月でも氷が残り、かつては蚕種貯蔵に利用されてきました。2か所ある風穴は、石積みが崩れ落ち危険な状況にあります。この史跡を後世に残し観光スポットとして考え、石の積み直しを行い景観の修復を図ります。また、神社脇から風穴に下る歩道も整備します。

三竈はお善鬼谷の三竈と呼ばれ、裾花川の岩壁にある3つの岩穴です。鬼が一晩で積み上げたもので、岩穴にはお善鬼さまが住み、さらに虫倉に通じているといわれています。かつての祭日には小さな虫切り鎌が売られ、近隣からも参拝者がきて大いに賑わった歴史もあります。

小田切地区社会を明るくする運動

社会を明るくする運動は、例年7月開催の「ひとり暮らし高齢者の集い」に合わせていましたが、新型コロナの影響で中止となり、更に10月の福祉大会での開催を計画しましたが、こちらも中止が決まり今年も集会形式での開催は取り止めました。のぼり旗による街頭活動のみに留め、7月の連日降雨が続く中支所前で行い、交流センター内にはのぼり旗を掲げ活動の推進を図りました。



街頭活動

ひとり暮らし高齢者の集いなど中止 「寄って家'S」は再開

なかなか収まらない新型コロナウイルスですが、ひとり暮らし高齢者の集いは7月3日「鬼無里の湯」で開催に向け準備を進めてきました。しかし移動車中や会場でのおしゃべりが楽しみでもあり、どうしても蜜が避けられない状況との判断で、残念ながら今年の開催は断念しました。尚、今後の在り方について対象の皆さんに、福祉委員による「聞き取り調査」を予定しています。

更に10月に計画していた福祉大会や市民運動会も中止が決まり、いきいきサロンも未だ開催できない状況にあり様子見中です。

4月から休館の交流センター「寄って家'S」は、6月1日から当面定員7名で再開しています。

『和輪話の会』今年度の取り組み課題 買い物や通院など移動支援事業に重点

今年度の「和輪話の会」（介護予防生活支援検討会）は、新メンバーを加えて取り組む課題の検討からスタートし、主な課題は①買い物支援事業、②男の居場所（居場所・社会参加の場づくり）としました。

8月28日の第9回会議では、市地域包括ケア推進課の「地域たすけあい事業等の再編について」で、市社協関連の地域たすけあい事業の現況は、資金面で事業継続が数年で困難となり、住民の立場での支え合い活動がより重要となるとの説明がありました。

小田切の支え合い活動は、既に「ふれあい・居場所」と「有償家事援助」は活動しており、今後は、買い物支援に通院支援を加えた移動支援事業に重点を置き検討に入っていきます。



第9回会議

令和
2年度

支所発地域力向上 支援金事業

3団体より応募がありましたが、6月5日の選考委員会にて2団体に支援が決まりました。支援金総額は323千円です。

1

「サークルみんなのいっほ」
～地域ふれあいの椅子整備事業（第2期）～

松本 清子 代表 支援額 173千円（要望額173千円）

昨年に続く事業で希望地区（公会堂）に数脚配備したが、会合や集会で座ることが困難な人が多く追加配備したい。22脚予定。

2

「NPO法人 小田切オアシス」
～長沼水害復興支援専用農場復元事業～

酒井 昌之 代表 支援額 150千円（要望額150千円）

小田切オアシス市民菜園内の未利用地を、昨年被災した長沼地区の復興支援専用農場として、石抜き作業などで復元整備したい。

長沼地区に枝豆贈呈 長沼水害復興支援小田切プロジェクト

長沼水害復興支援プロジェクトは、支援の枝豆第1弾を8月14日に届けました。当日は小田切オアシスのメンバーが早朝より収穫作業に入り、軽トラ2台に積み込み、長沼支所にて贈呈式を行いました。

更に8月22日には、新しく整地した長沼支援圃場で長沼の皆さんが野菜を播種、11月収穫予定です。尚、この日に第2弾となる枝豆を贈呈しました。



贈呈式



野菜播種



危険業務従事者叙勲 瑞宝単光章

消防功勞で深沢区の小池さん

永年にわたり消防職員として、著しく危険性の高い業務に精励し、消防の発展に貢献したなど消防功勞により、上深沢の小池文男さんが、令和2年4月発令の危険業務従事者叙勲で瑞宝単光章を受賞しました。

地域おこし協力隊 着任

三輪地区出身 **酒井慎平** 隊員 さかい けんぺい

小田切地区 3 人目となる地域おこし協力隊が、6 月 1 日着任しました。三輪地区出身で東京よりリターンの酒井慎平隊員30歳です。小田切には少年野球で訪れた思い出も残っているそうです。任期は 2 年間です。

着任あいさつ



今年 6 月に小田切地区に着任してから早 3 か月が過ぎ、新緑が眩しい春を経て、長い雨季が過ぎ、酷暑が続いた夏も佳境を迎えています。小田切に携わるようになってからというもの、これまで感じられなかった四季の変化に気付く事が多くなり、充実した心持ちで活動に当たる事ができております。これもひとえに、地域の皆様のお力添えのおかげと、深く感謝しております。

また世間は、新型コロナウイルスの影響で不穏な閉塞感に包まれています。こんな時だからこそ、地域の人のつながりが温かく心救われる思いです。

私は、小田切の魅力の一つに人のつながりを感じています。今年は、夏祭りなどの地域行事が軒並み中止になってしまいましたが、日々の活動を通して皆さまとお会いできるのを楽しみにしております。今後の活動を通して地域の一助になれるように、まずは私も地域のつながりを大切に励んで参りますので、よろしくお祈りいたします。



落石 千木の県道



5月12日

手作りマスク寄贈



裾花の池田さん

全戸配布の布マスク 受付箱



住自協設置

福祉自動車仕切りで運行再開



5月15日

エルダーフラワー園 満開



6月10日

続いた7月の大雨



水位上昇の両郡橋 7月8日



花上線法面亀裂で通行止 7月8日



地藏平の地すべり 7月21日

やまびこ

まだまだ続いている「新型コロナウイルス感染症」。計画した行事がなかなか開けず、各団体が苦慮している。開催に万全の準備で臨んでもどうしても、もしも・・・が残る。学校のグラウンドが草刈りでききれいになり、鉄棒も藪から出てきた。周囲の雑木も整理し、善光寺平の眺望も復活させたい。ちょうどスカイツリー第一展望台からの眺めと同じだと、ちょっと前にはよく言っていた。